看護ケアの質の測定用具（看護婦用）の開発（2）

— 妥当性の検定 —

○ 田村正枝 田中美恵子（聖路加看護大学）

野並葉子（虎ノ門病院）

南 裕子（兵庫県保健環境部）

Holzemer, William L.（カルフォルニア大学サンフランシスコ校）☆

I. はじめに

看護ケアの質の測定用具（看護婦用）の開発（1）で報告されているように、本看護QA研究会では質の保証モデルにもとづいて看護ケアの質（Quality of Nursing Care）質問紙（看護婦用）—以下QNC質問紙（看護婦用）と略す—を作成した。本研究では、QNC質問紙（看護婦用）の妥当性の1つである概念構成妥当性の予測性の検定を行なうことを目的とした。この質問紙は行なわれている看護ケアの質に対する看護婦の認知を問うものであり、これは評価する看護婦の身体的、心理的、精神的状態によって大きく影響を受けると考えられる。そこでこれを検定するために以下の仮説を設定した。

仮説1 看護婦の燃え尽きは、看護ケアの質の認知を低下させるだろう。

仮説2 看護婦の自尊感情が高ければ高いほど、看護の質の認知は高くなるだろう。

II. 研究方法

1) 対象者と方法：看護ケアの質の測定用具（看護婦用）の開発（1）で報告したとおりである。看護婦の燃え尽きの測定には、Pinesらが開発し、稲岡が翻訳したBurnoutスケールまた、自尊感情（以下SEと略す）の測定には、RosenbergのSE尺度を用いた。Burnoutスケールは身体的、心理的、精神的病弊の観点から21の質問項目で構成され、信頼性、妥当性が検証されている。SE尺度は自己受容の側面を測定する10の質問項目からなり、日本語版の信頼性、妥当性も検証されているものである。

2) 分析方法：QNC質問紙（看護婦用）の質問項目数は、信頼性の検定、項目間相関、因子分析の結果、項目の精選を行なって94項目から83項目となった。この83項目からの得点を項目数で割ったものをQNC得点とした。仮説1の検定にはBurnoutスコアとQNC得点との相関とBurnoutスコアの3群間（3.0未満の健康群、3.0～4.0未満の警告群、4.0以上のBurnout群）とそれぞれのQNC得点の一元配置分散分析および多重比較を行なった。仮説2の検定にはSE得点とQNC得点との相関とSE得点の3群間（20.0未満の自尊感情の低い群、20.0～30.0未満の中間群、30.0以上の高い群）とそれぞれのQNC得点の一元配置分散分析および多重比較を行なった。統計処理にはSPSS-Xを用いた。

III. 結果と考察

1) 対象者の特徴と燃え尽き、自尊感情：対象者280名の特徴は看護ケアの質の

（注）☆ なおこの研究は、看護QA研究会の会員51名全員によって行なわれたものである。

測定用具（看護婦用）の開発（１）で報告されたとおりである。対象者の Burnout スコアの平均値は 3.67(SD 0.991)、健康群 67名（27.2%）、警告群 89名（36.2%）、Burnout群 90名（36.6%）であった。対象者の S E の平均得点は 25.03（SD 5.692）で、S E 得点が 30点以上の S E の高い群 52名（20.1%）、19点以下の低い群 43名（16.6%）、中間の群 164名（63.3%）であった。

２）妥当性の検定：Q N C の平均得点は、2.74（SD 0.423）であった。Q N C 得点と Burn out スコア、S E 得点との相関関係を表 1 に示すとおりである。Q N C 得点と Burn out スコアの間には、1 % 水準で有意な弱い逆相関が認められた。また、Burnout スコアの健康群、警告群、Burnout群別に、それぞれの Q N C 得点について一元配置分散分析および多重比較を行った結果、Burnout スコア別のそれぞれの群間に 5 % 水準で有意差が認められた（表 2）。これは、Burnout 群が警告群、健康群よりも看護の質を有意に低く認知しており、また警告群が健康群よりも看護の質を有意に低く認知していたことを示しており、仮説 1 が支持されたことになる。Q N C 得点と S E 得点の間には、1 % 水準で有意な弱い相関が認められた。また、S E 得点の高い群、中間の群、高い群別に、それぞれの Q N C 得点について一元配置分散分析および多重比較を行なった結果、S E 得点のそれぞれの群間に 5 % 水準で有意差が認められた。これは、自尊感情の高い群が中間の群、低い群よりも看護の質を有意に高く認知しており、また中間の群が低い群よりも看護の質を高く認知していたことを示しており、仮説 2 が支持されたことになる。

IV. 結論

燃え尽きて自尊感情の低下した看護婦の看護ケアは、機械的、表面的となり、心身統一体としての全人的なケアを行なうことが困難となって看護の質は低下することになる。しかしこの質問紙は看護婦の認知を通した質の評価であるので、燃え尽きや自尊感情の低下によって看護婦の看護に対する見方が変わってきたのか、それとも実際に看護の質が低下したのかは説明することはできなかった。今後その点について、測定用具の妥当性をさらに検討していく必要がある。

表 1 Q N C 得点と Burnout スコア
S E 得点との相関関係

	1	2	3
1 Burnout スコア			
2 S E 得点	-0.609 *		
3 Q N C 得点	-0.277 *	0.294 *	

* $p \leq 0.01$

表 2 Burnout スコア別 Q N C 得点

Burnout スコア	Q N C 得点
3.0 未満	2.868
3.0~4.0 未満	2.731
4.0 以上	2.609

* $p \leq 0.05$

表 3 S E 得点別 Q N C 得点

S E 得点	Q N C 得点
20.0 未満	2.547
20.0~30.0 未満	2.717
30.0 以上	2.906

* $p \leq 0.05$